

阿蘇草原再生全体構想＜第3期＞ 概要

目標

第3期（令和3～9年度）においては、30年後に、今（令和3年）と変わらない規模の阿蘇草原を残すことを目標に、阿蘇草原の減少傾向を改善させることを目指す。

課題

- 農畜産業による草原維持・管理は、従事者の減少、高齢化、後継者不足という課題を抱え、一段と厳しい状況である。関連して、牧野を取り巻く状況も変化しており、入会権等、牧野のあり方も整理が必要とされる。
- 野草地面積は減少傾向にある。人工草地を含めた草原面積も減少している。

阿蘇草原再生協議会

平成17年12月に組織化

令和 6年10月 構成員数270個人・団体
(個人77、団体・法人193)

対象区域

熊本県阿蘇郡市（阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、西原村及び南阿蘇村）及び山都町の一部（旧蘇陽町）内の草原及びその周辺の「野草地」

（過去に草原であった場所を含む）



野焼き支援ボランティアの派遣



管理道整備支援による維持管理作業の省力化

重点取組の3つの柱とその具体的な取組

柱1) 生業による草原維持の支援強化

- ・ 農畜産業への支援の強化：あか牛の飼育頭数拡大に向けた支援、担い手育成・支援、管理の省力化・効率化
- ・ 牧野管理作業の軽減：野焼き等維持管理への支援、林地やクヌギ林の荒廃に関する課題解決
- ・ 野焼き支援ボランティアの拡充：ボランティア参加者の確保や負担軽減策の検討

柱2) 公益機能保全のために多様な主体が関わる草原管理

- ・ 生物多様性に配慮した営農への支援：新たな支援制度の検討・試行
- ・ 観光利用の草原維持への還元：草原維持と両立した観光利用の促進、新たな課題への対応
- ・ 多様な関わりによる草原管理の推進：管理の継続が見通せない牧野での維持管理の再開
- ・ 野草資源の多様な利用の促進：野草資源利用の事業化の拡大や基盤の整備

柱3) 普及啓発と科学的根拠に基づく後方支援基盤づくり

- ・ 草原環境学習の実施：地域内の子どもへの草原学習の実施、地域内の大人への普及啓発、地域外を対象に行う普及啓発への活用、草原環境学習の実施体制の安定化・拡充
- ・ 情報発信の強化：各取組を促進するための情報発信やPRを強化
- ・ 草原情報の蓄積・活用の基盤づくり：情報の蓄積や活用
- ・ 草原機能に関する科学的データの収集：科学的データの収集、研究支援
- ・ 活動基盤の安定化：牧野のあり方に関する情報整理、財源確保に係る情報整理と対策の検討

※ なお、取組がどのような社会課題の解決につながるかを理解しやすくするため、重点取組の3つの柱は、SDGsの17の目標に当てはめ、整理している。